



日本触媒

# 2024年3月期 (2023年度) 決算説明会資料

2024年5月15日

代表取締役社長 野田 和宏

# 目次

## I. 2023年度 実績

## II. 2024年度 予想

## III. 中期経営計画（2022年度～2024年度）の進捗状況

## IV. 2030年長期ビジョン達成に向けて

用語解説	
AA	アクリル酸
AES	アクリル酸エステル
SAP	高吸水性樹脂
EO	酸化エチレン
EG	エチレングリコール
イオネル <sup>®</sup>	リチウムイオン電池用電解質
SOFC	固体酸化物形燃料電池
SOEC	固体酸化物形電解セル

## ■ 2023年度実績

**売上収益 3,920億円 営業利益 166億円**

- ・世界的なインフレに伴う需要の低迷などにより、多くの製品で需給バランスが悪化。中国の安価品がアジア地域に流入
- ・主にアクリル酸エステルなどのスプレッドが悪化したことにより、対前年減益
- ・一方、SAPは新興国の需要が伸長、またディスプレイ関連製品の需要の底打ちがみられた

## ■ 2024年度予想

**売上収益 4,000億円 営業利益 150億円**

- ・マテリアルズ事業のスプレッド縮小や固定費の増加を見込み、対前年減益
- ・需要低迷や中国景気後退の影響がしばらく続くが、今年度後半にかけて徐々に需要は回復する見通し
- ・戦略製品群の立て直しや成長事業の絞り込み、積極的なリソース投入により、次期中期経営計画に向けた基盤を固める

# I. 2023年度 実績

---

## 2023年度 業績の概要（対前年比較）

(億円)	FY2022	FY2023	増減	
	実績	実績	増減	率
売上収益	4,196	3,920	▲ 276	▲6.6%
営業利益	235	166	▲ 70	▲29.6%
(利益率)	5.6%	4.2%	-	-
持分法による投資損益	19	▲ 10	▲ 29	-
税引前利益	262	157	▲ 104	▲39.9%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	194	110	▲ 84	▲43.2%
ROE	5.5%	3.0%	▲2.5p	-
ROA	5.0%	2.9%	▲2.1p	-
ナフサ価格 (円/kL)	76,600	69,100	▲ 7,500	▲9.8%
円/ドル	135	145	9	6.8%
円/ユーロ	141	157	16	11.2%

## セグメント別売上収益・営業利益

市場領域	FY2022	FY2023			売上収益増減要因 (億円)	
	実績	実績	増減	増減率	数量差	単価差
AA・SAP	2,321	2,160	▲ 161	▲6.9%	(+)	(-)
ベーシックマテリアルズ他	736	678	▲ 58	▲7.8%	(-)	(-)
<b>マテリアルズ事業 合計</b>	<b>3,057</b>	<b>2,838</b>	<b>▲ 219</b>	<b>▲7.2%</b>		
インダストリアル・ハウスホールド	890	806	▲ 83	▲9.4%	(-)	(-)
エネルギー・エレクトロニクス	236	264	28	11.9%	(+)	(-)
その他	13	11	▲ 1	▲11.3%	(-)	(+)
<b>ソリューションズ事業 合計</b>	<b>1,139</b>	<b>1,082</b>	<b>▲ 57</b>	<b>▲5.0%</b>		
<b>売上収益 合計</b>	<b>4,196</b>	<b>3,920</b>	<b>▲ 276</b>	<b>▲6.6%</b>		
マテリアルズ 事業	209	127	▲ 82	▲39.2%		
ソリューションズ 事業	15	27	12	81.8%		
全社共通	11	11	0	2.0%		
<b>営業利益 合計</b>	<b>235</b>	<b>166</b>	<b>▲ 70</b>	<b>▲29.6%</b>		

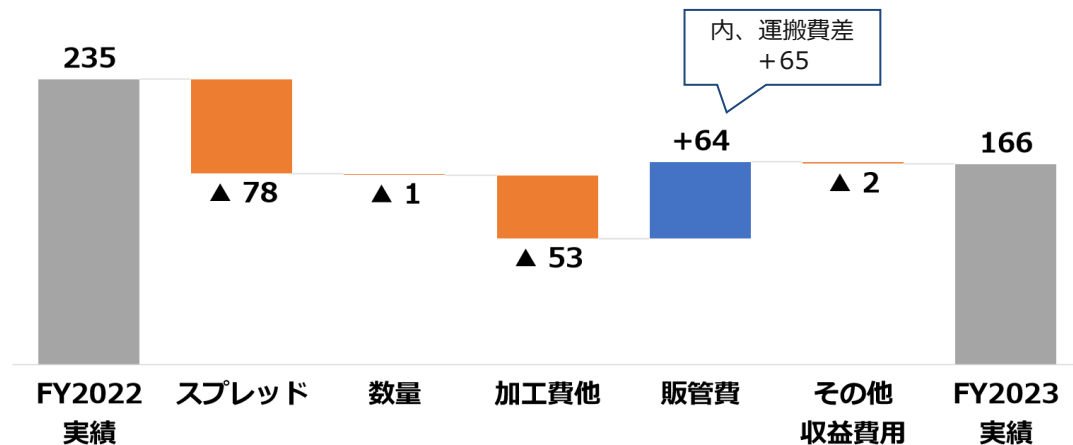
(+) 数量差増・単価差増  
 (-) 数量差減・単価差減

# 営業利益増減分析（全社）

アクリル酸エステル等のスプレッド縮小や、加工費の増加（在庫評価差額の影響、減価償却費の増加など）が、海上輸送費の下落等による販管費の減少を上回り、対前年減益

(内訳)

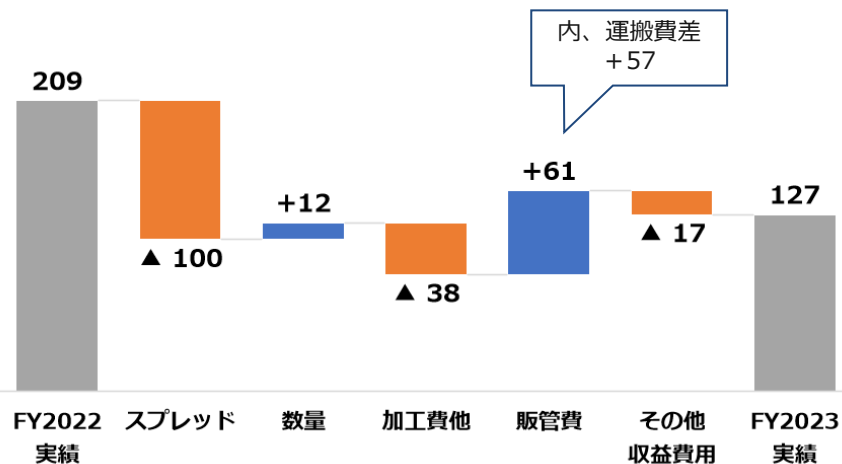
(億円)	営業利益		利益差	スプレッド			数量	加工費他		販管費	その他 収益費用
	FY2022 実績	FY2023 実績		売価	変動費	在庫評価					
全社	235	166	▲ 70	▲ 78	▲ 364	+287	▲ 1	▲ 53	▲ 37	+64	▲ 2



# 営業利益増減分析 (マテリアルズ)

(内訳)

(億円)	営業利益		利益差	(内訳)			数量	加工費他		販管費	その他 収益費用
	FY2022 実績	FY2023 実績		スプレッド	売価	変動費		在庫評価			
マテリアルズ	209	127	▲ 82	▲ 100	▲ 360	+260	+12	▲ 38	▲ 28	+61	▲ 17



## スプレッド

- ・ AA・AES : 海外市況の下落等によりスプレッド縮小

## 数量

- ・ AA・AES : 新興国向けの拡販により数量増
- ・ SAP : 新興国向け需要好調で数量増

## 加工費 販管費他

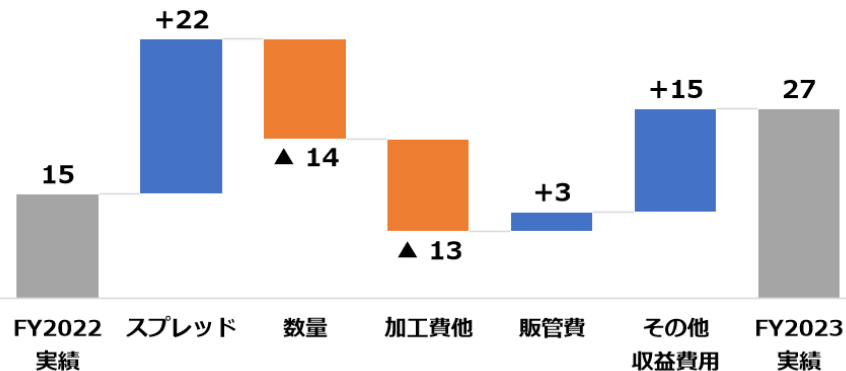
- ・ 在庫評価差のマイナスやインドネシアの償却費の増加などにより加工費が増加
- ・ 海上輸送費 (運搬費) の下落により販管費が減少
- ・ その他収益費用  
固定資産の減損 (中国子会社) を計上



# 営業利益増減分析 (ソリューションズ)

(内訳)

(億円)	営業利益		利益差	スプレッド			数量	加工費他		販管費	その他 収益費用
	FY2022 実績	FY2023 実績		売価	変動費	在庫評価					
ソリューションズ	15	27	+12	+22	▲ 4	+26	▲ 14	▲ 13	▲ 9	+3	+15



## スプレッド

- ・ インダストリアル・ハウスホールド：  
原料価格下落によりスプレッドが拡大
- ・ エナジー・エレクトロニクス：  
販売構成差によりスプレッド拡大

## 数量

- ・ インダストリアル・ハウスホールド：  
生活用品向けの需要が低迷し、数量減少
- ・ エナジー・エレクトロニクス：  
ディスプレイ関連需要の底打ちにより  
数量増

## 加工費 販管費他

- ・ その他収益費用  
固定資産(土地)売却益を計上

## Ⅱ. 2024年度 予想

---

## 2024年度 業績予想の概要（対前年比較）

(億円)	FY2023	FY2024	増減	
	実績	予想	増減	率
売上収益	3,920	4,000	80	2.0%
営業利益	166	150	▲ 16	▲9.4%
(利益率)	4.2%	3.8%	-	-
持分法による投資損益	▲ 10	9	19	-
税引前利益	157	160	3	1.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	110	105	▲ 5	▲4.6%
ROE	3.0%	2.7%	▲0.3p	-
ROA	2.9%	2.9%	0.0p	-
ナフサ価格 (円/kL)	69,100	75,000	5,900	8.5%
円/ドル	145	150	5	3.7%
円/ユーロ	157	160	3	2.0%

## セグメント別売上収益・営業利益

市場領域	FY2023	FY2024			売上収益増減要因 (億円)	
	実績	予想	増減	増減率	数量差	単価差
AA・SAP	2,160	2,114	▲ 46	▲2.1%	(+)	(-)
ベーシックマテリアルズ他	678	696	18	2.6%	(+)	(-)
<b>マテリアルズ事業 合計</b>	<b>2,838</b>	<b>2,810</b>	<b>▲ 28</b>	<b>▲1.0%</b>		
インダストリアル・ハウスホールド	806	865	59	7.3%	(-)	(+)
エネルギー・エレクトロニクス	264	314	50	19.0%	(+)	(+)
その他	11	11	▲ 1	▲6.7%	(+)	(-)
<b>ソリューションズ事業 合計</b>	<b>1,082</b>	<b>1,190</b>	<b>108</b>	<b>10.0%</b>		
<b>売上収益 合計</b>	<b>3,920</b>	<b>4,000</b>	<b>80</b>	<b>2.0%</b>		
マテリアルズ 事業	127	105	▲ 22	▲17.5%		
ソリューションズ 事業	27	37	10	35.4%		
全社共通	11	8	▲ 3	▲27.2%		
<b>営業利益 合計</b>	<b>166</b>	<b>150</b>	<b>▲ 16</b>	<b>▲9.4%</b>		

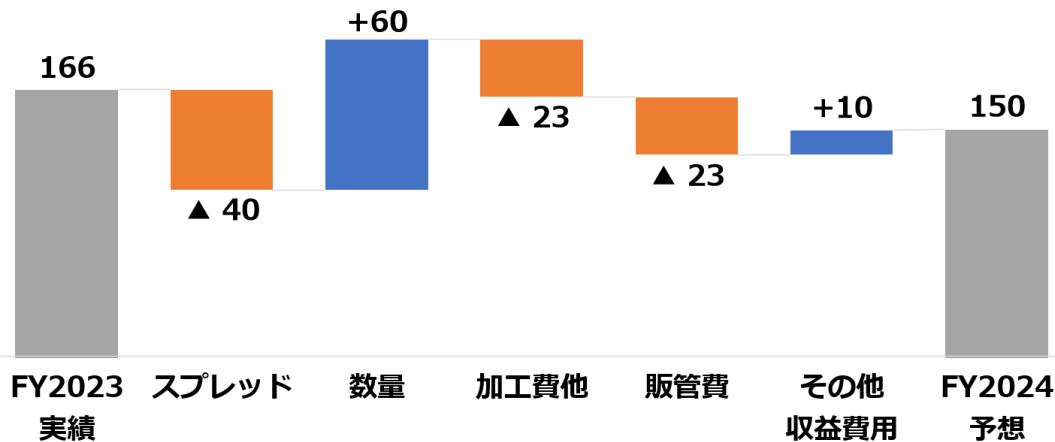
(+) 数量差増・単価差増  
 (-) 数量差減・単価差減

# 営業利益増減分析（全社）

販売数量の増加があるものの、マテリアルズ事業のスプレッド縮小に加えて、物価上昇等に伴う製造固定費や販管費等の増加により、対前年減益を見込む

(内訳)

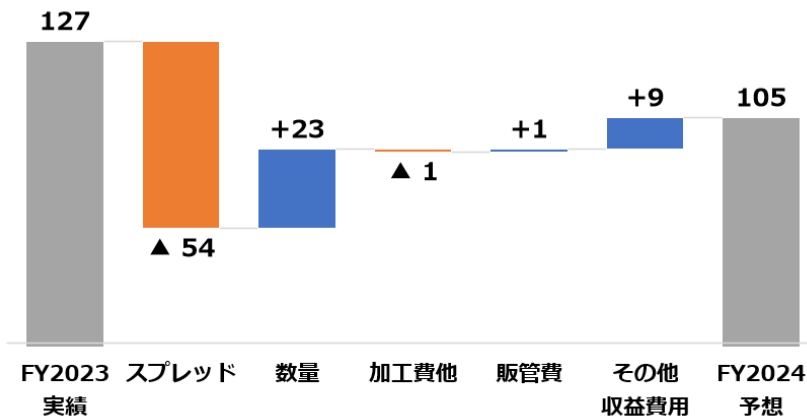
(億円)	営業利益		利益差	スプレッド			数量	加工費他		販管費	その他 収益費用
	FY2023 実績	FY2024 予想		売価	変動費	在庫評価					
全社	166	150	▲ 16	▲ 40	+25	▲ 64	+60	▲ 23	▲ 8	▲ 23	+10



# 営業利益増減分析 (マテリアルズ)

(内訳)

(億円)	営業利益		利益差	スプレッド			数量	加工費他		販管費	その他 収益費用
	FY2023 実績	FY2024 予想		売価	変動費	在庫評価					
マテリアルズ	127	105	▲ 22	▲ 54	▲ 4	▲ 51	+23	▲ 1	+7	+1	+9



## スプレッド

- ・ AA・AES：海外市況の軟化継続と原料価格の上昇によりスプレッド縮小
- ・ SAP：海外市況の軟化によりスプレッド縮小

## 数量

- ・ SAP：国内と新興国の需要の取り込みにより数量増加
- ・ AA・AES：大口顧客向けの販売減により数量減

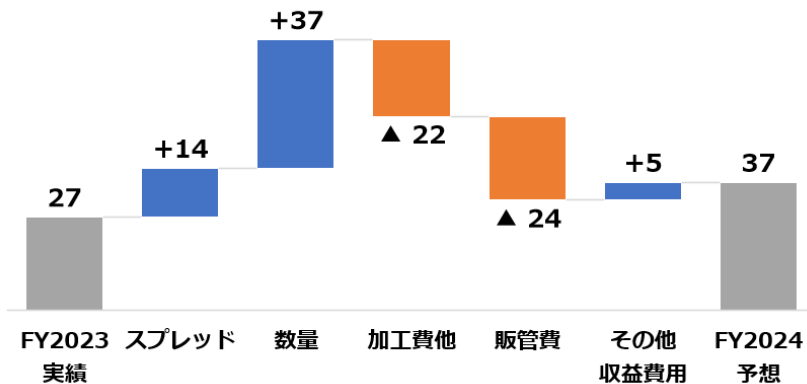
## 加工費 販管費他

- ・ その他収益費用  
前年度の固定資産減損 (中国子会社)

# 営業利益増減分析 (ソリューションズ)

(内訳)

(億円)	営業利益		利益差	スプレッド			数量	加工費他		販管費	その他 収益費用
	FY2023 実績	FY2024 予想		売価	変動費	在庫評価					
ソリューションズ	27	37	+10	+14	+28	▲ 14	+37	▲ 22	▲ 15	▲ 24	+5



## スプレッド

- ・ インダストリアル・ハウスホールド：生活用品向け、工業材料向けでの販売価格上昇や円安の進行などによりスプレッド改善

## 数量

- ・ エナジー・エレクトロニクス：ディスプレイ関連需要の回復を見込み数量増

## 加工費 販管費他

- ・ 加工費他：在庫評価の影響
- ・ 販管費：研究費の増加

## Ⅲ. 中期経営計画（2022年度～2024年度） 進捗状況

---

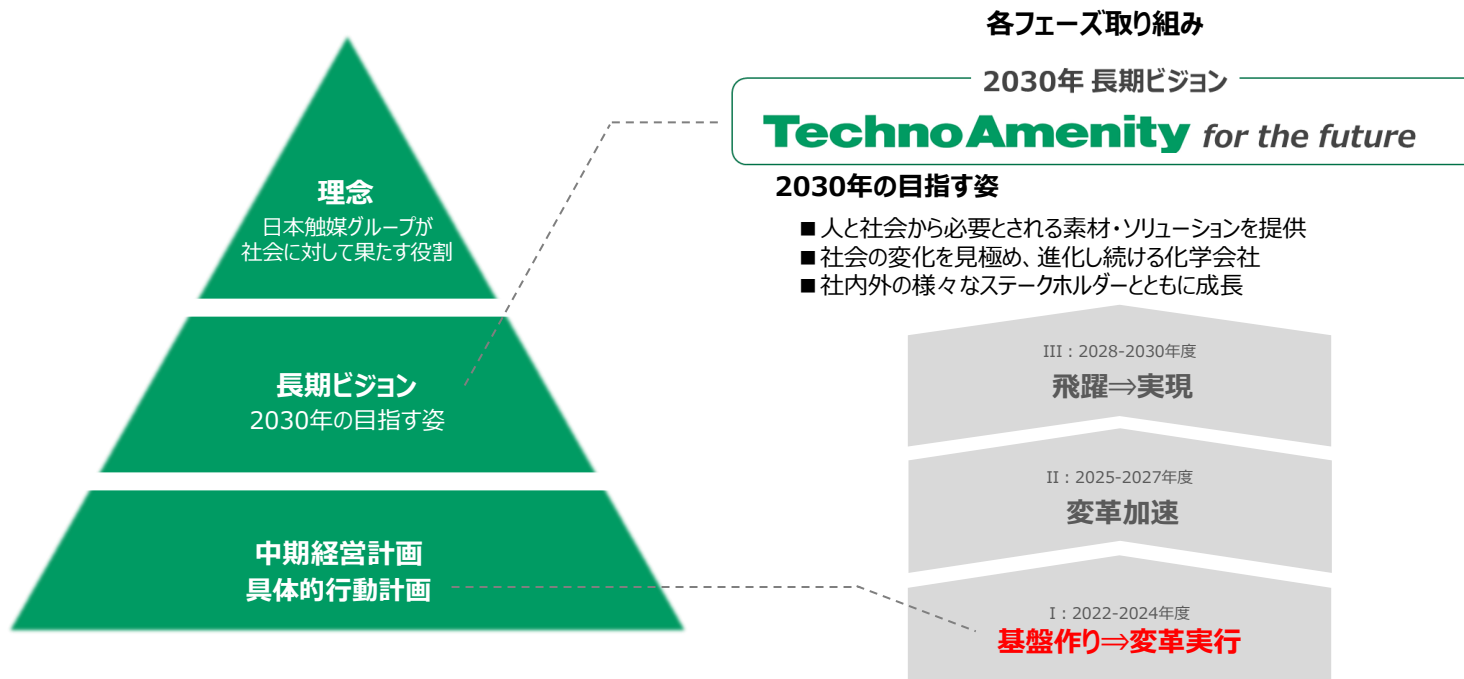


# 中期経営計画の概要

## 現中期経営計画の位置付け

2030年の目指す姿に向けた2022-2024年度の具体的な行動計画を策定

「TechnoAmenity for the future-I」では、基盤作りと変革実行に取り組む



# 中期経営計画の概要

## 2024年までの取り組みと到達点

DX推進により、3つの変革を加速



**ソリューションズ事業拡大**

- ソリューション提案力強化と注目市場へのリソース集中
- 戦略製品群拡販による収益力向上  
営業利益2倍に拡大 [2021年度比]

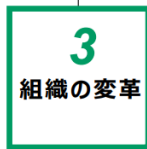
**マテリアルズ事業強靱化**

- 収益力強化とサステナビリティ推進による付加価値向上  
(増設：進行中のNSIアクリル酸のみ)  
(NSI: PT.NIPPON SHOKUBAI INDONESIA)



ライフサイクル全体の環境負荷低減に貢献  
(資源採掘から最終製品廃棄まで)

- 生産プロセスのCO<sub>2</sub>排出量削減
- 環境貢献製品の開発・販売拡大  
(お客様の環境負荷を低減)

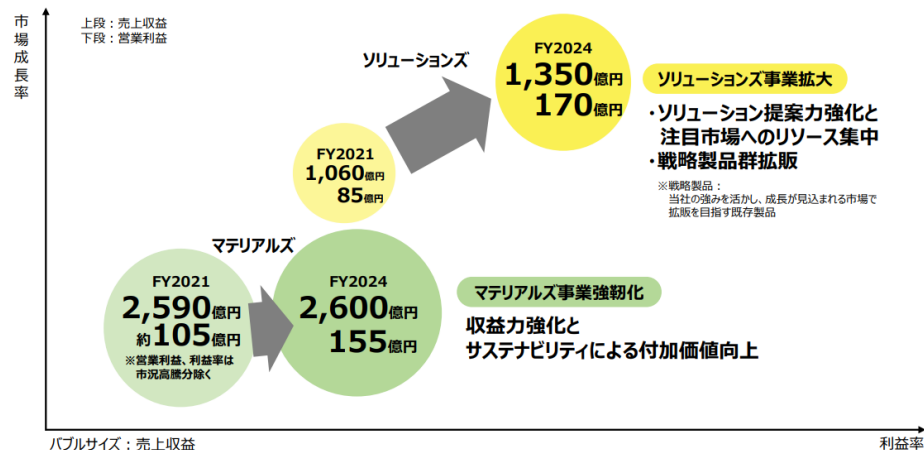


個人と組織が成長できる仕組みを実現

- 人事制度改定
- ガバナンス強化
- 生産性向上施策
- 権限委譲

## ポートフォリオ変革

### 既存分野から成長分野へのポートフォリオ変革



# 中期経営計画の進捗① 総括

目標	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2024年度 予想	2024年度 中期経営計画	2030年度 目指す姿
営業利益	291億円	235億円	166億円	<b>150億円</b>	<b>330億円</b>	<b>600億円規模</b>
リレーション事業営業利益	78億円	15億円	27億円	<b>37億円</b>	<b>170億円</b>	<b>400億円規模</b>
ROE	7.2%	5.5%	3.0%	<b>2.7%</b>	<b>7.5%</b>	<b>9.0%以上</b>
ROA	6.8%	5.0%	2.9%	<b>2.9%</b>	<b>6.9%</b>	<b>9.0%以上</b>
総還元性向	30.3%	52.2%	99.7%	<b>148.9%</b>	<b>50%</b>	—
新規製品売上収益 (単体・SAP除く・ 5年以内上市)	109億円	171億円	136億円	<b>140億円</b>	<b>280億円</b>	—
成長投資および 競争力維持投資	—	267億円	503億円 (22-23累計)	<b>970億円 (22-24累計)</b>	<b>1,200億円 (22-24累計)</b>	<b>4,000億円 (22-30累計)</b>
CO2排出量削減 (2014年度比・国内・ Scope1&2)	2%削減	14%削減*	13%削減* <small>(速報値)</small>	—	—	<b>30%削減</b>
環境貢献製品売上収益	390億円	440億円	450億円 <small>(速報値)</small>	<b>450億円</b>	<b>550億円</b>	<b>1,350億円</b>
事務系・化学系女性 採用比率	23.3%	24.1%	28.6%	<b>30.0%</b>	<b>30%</b>	—
女性基幹職比率	4.1%	4.4%	5.4%	<b>6.0%</b>	<b>6%</b>	—
男性育児休職取得率 (15日以上)	4.1%	36.4%	90.0%	<b>100.0%</b>	<b>100%</b>	—

(\*カーボンプレジット7.5%を含む) (\*カーボンプレジット7.3%を含む)

# 中期経営計画の進捗② 総括

## ■ 主要財務目標

(億円)

	実績			予想	中計目標	目指す姿
	2021年度	現中期経営計画期間		2024年度	2024年度	2030年度
		2022年度	2023年度			
売上収益	3,693	4,196	3,920	4,000	3,950	5,000
マテリアルズ	2,629	3,057	2,838	2,810	2,600	2,500
ソリューションズ	1,064	1,139	1,082	1,190	1,350	2,500
営業利益	291	235	166	150	330	600
マテリアルズ	209	209	127	105	155	200
ソリューションズ	78	15	27	37	170	400
全社共通	3	11	11	8	5	-

中計目標との主な乖離要因

- ・ 戦略製品群の不振
- ・ 成長事業の拡大遅延

## ■ ROE

	当期利益	株主資本	ROA	収益性	効率性	健全性
	$\frac{\text{当期利益}}{\text{株主資本}}$		$\frac{\text{当期利益}}{\text{売上収益}} \times \frac{\text{売上収益}}{\text{総資産}}$	$\frac{\text{当期利益}}{\text{売上収益}}$	$\frac{\text{売上収益}}{\text{総資産}}$	$\frac{\text{総資産}}{\text{株主資本}}$
2024年度中計	7.5%		6.8%	0.74	1.48	
2024年度予想	2.7%		2.6%	0.73	1.44	
課題			収益性の改善	資産効率の向上	レバレッジの引き上げ	

# 中期経営計画の進捗「事業の変革」

項目	達成状況	今後のアクションプラン
ソリューションズ事業拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●戦略製品群の販売不振                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・光学フィルム用樹脂：ディスプレイ関連の需要回復遅れ等で想定ほど販売数量伸びず</li> <li>・コンクリート混和剤用原料：混和剤業界の再編や海外市場で中国・韓国品との競合により数量減</li> <li>・洗剤原料：高性能洗剤で使用される当社製品の使用量減</li> </ul> </li> <li>●2025年度以降の事業拡大(利益貢献)を目指しているエネルギー(電池・水素)、ライフサイエンス(健康医療：核酸・ペプチドCDMO)の育成は2年程度の遅れ</li> <li>●ソリューションズ提案力強化に向けたプラットフォームの整備完了                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・人員リソースの増員 3年間で 約100人増 (当初計画 70名)</li> <li>・顧客情報の可視化・共有化の仕組み構築</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●戦略製品群の立て直し                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・光学フィルム用樹脂：液晶ディスプレイ市場の中国シフトへの対応</li> <li>・コンクリート混和剤用原料：カーボンニュートラル対応に貢献する製品の早期投入</li> <li>・洗剤原料：最適な生産体制への見直し</li> </ul> </li> <li>●3事業 (エネルギー事業・エレクトロニクス事業・ライフサイエンス事業) にリソースを積極的に投入</li> <li>●多様な事業拡大施策 (M&amp;A, 製品クラスター化, 海外展開等)の実行</li> </ul>
マテリアルズ事業強靱化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●AA・SAP：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・SAP: 既存プラント改造による能力増強は完了</li> <li>・AES: 中国の景気低迷によるアジア地域への中国安値品の流出等で市況低下・販売数量減</li> </ul> </li> <li>●EO：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・原燃料価格高騰を価格転嫁実施</li> </ul> </li> <li>●複数ルートバイオAA製法を開発中(ベンチ・パイロット設備建設へ)</li> <li>●当初想定ほど、バイオマス由来の製品需要が伸びず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●SAP：機能性の高い分野やインド市場等の成長市場への販売強化</li> <li>●AA・EO：国内業界再編をにらんだシェア拡大</li> <li>●EO：新規EO付加の受託獲得</li> <li>●需要の高まりに備えたバイオAAの製法開発の継続</li> </ul>

※「環境対応への変革」「組織の変革」は次期中期経営計画で達成状況を開示予定

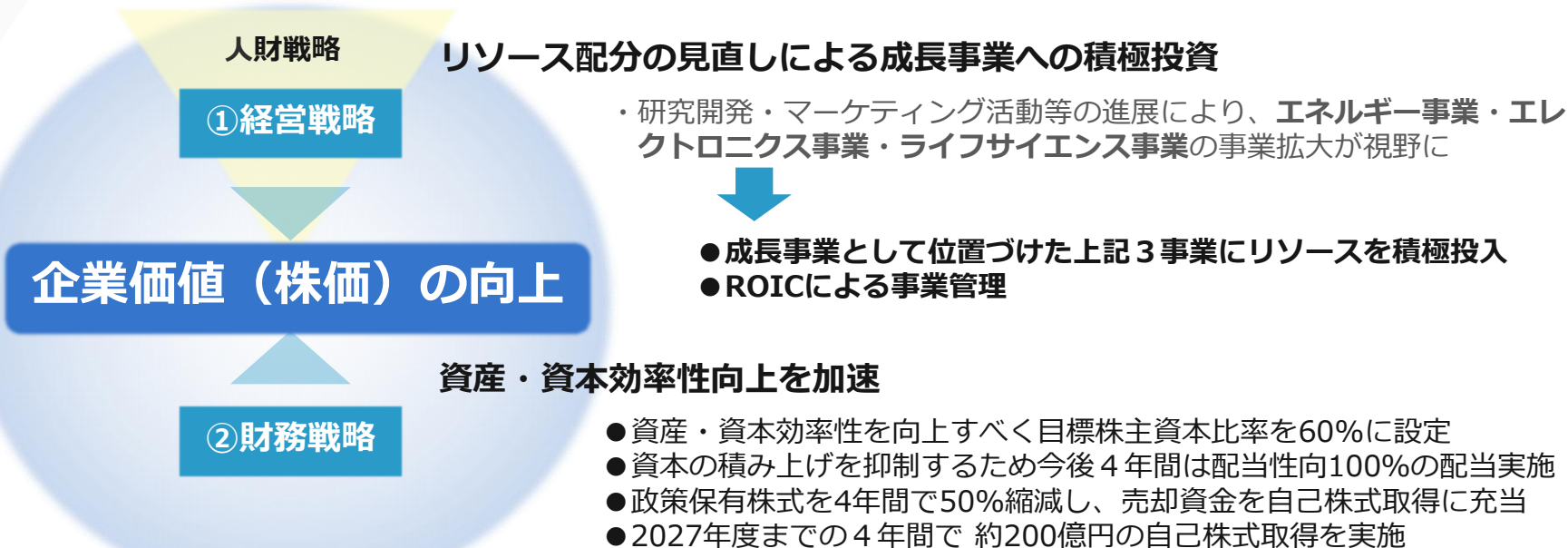
## IV. 長期ビジョン達成に向けて

---

# 2030年長期ビジョン達成に向けて

<次期中期経営計画（2025年度～2027年度）を現在策定中>

- 2030年長期ビジョン目標 ROE・ROA 9%以上の達成に向けて、①経営戦略と②財務戦略を見直し
- 企業価値の向上に向け、2025年度からの次期中期経営計画を待たず、今年度から取り組みを開始



## ① 経営戦略：2030年までの成長イメージ

■ 2027年度までは成長事業の強化や戦略製品群の立て直しにより利益拡大

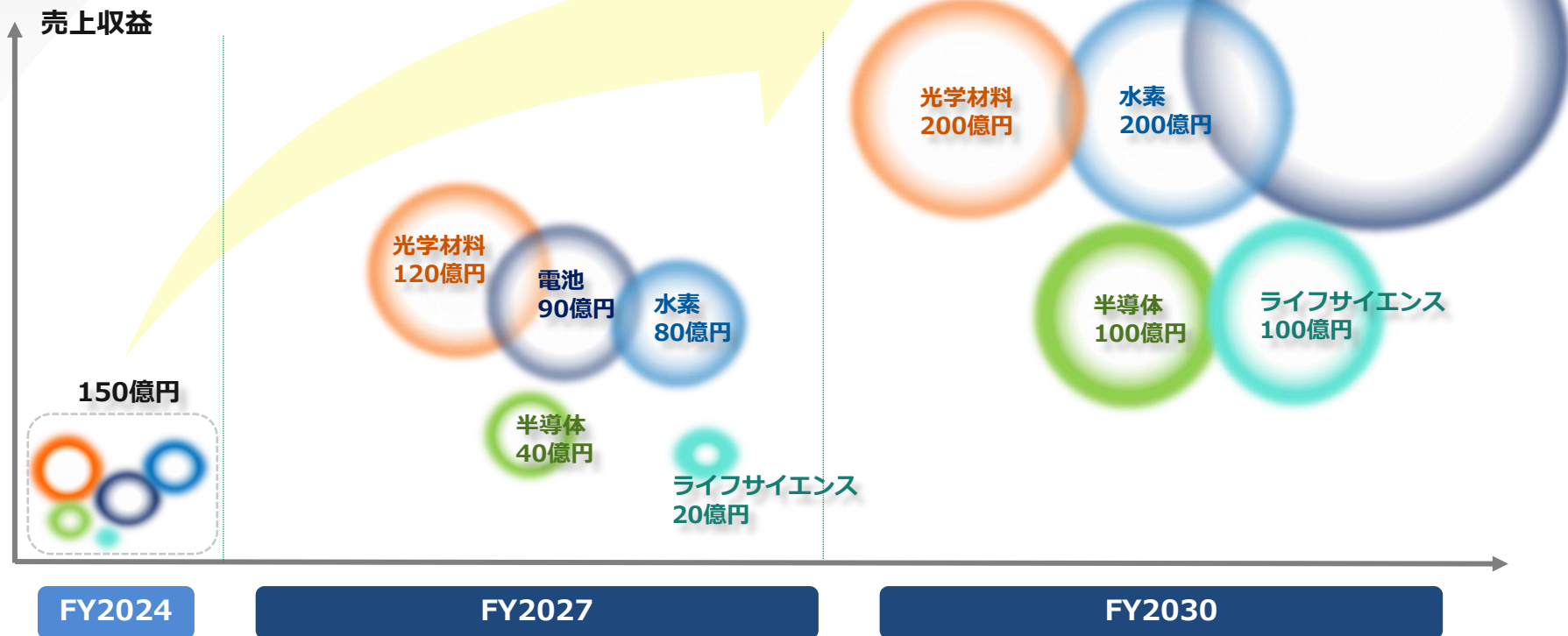
■ 2030年度前後には成長事業が利益拡大局面へ

事業		戦略概要
成長事業  市場の拡大を捉えた事業拡大	エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 電池</li> <li>■ 水素</li> </ul>
	エレクトロニクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 光学材料</li> <li>■ 半導体</li> </ul>
		ライフサイエンス
	コア事業① 効率性を高めた利益の最大化	AA・SAP
コア事業② エリア拡大や市場の変曲点を捉えた事業拡大	EO	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内業界再編の機会を捉え、最大限の需要を取り込む</li> </ul>
	スペシャリティケミカル	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 独自性の高い素材群による高利益率事業の展開</li> <li>■ マーケティング方法・開発体制見直し、海外展開の加速</li> </ul>
	コンストラクションケミカル	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ カーボンニュートラル対応に貢献する製品の開発・投入</li> <li>■ エマルジョンを基点とした高機能建築資材材料のラインナップ拡大</li> </ul>



# ① 経営戦略：2030年までの成長イメージ

## 成長事業の売上規模：2027年度&2030年度





# ① 経営戦略：水素

■ 水素サプライチェーンを支える製品群 2030年目標 売上収益 200億円規模・営業利益率 20%水準

※2030年売上規模

## アルカリ水電解用 セパレータ

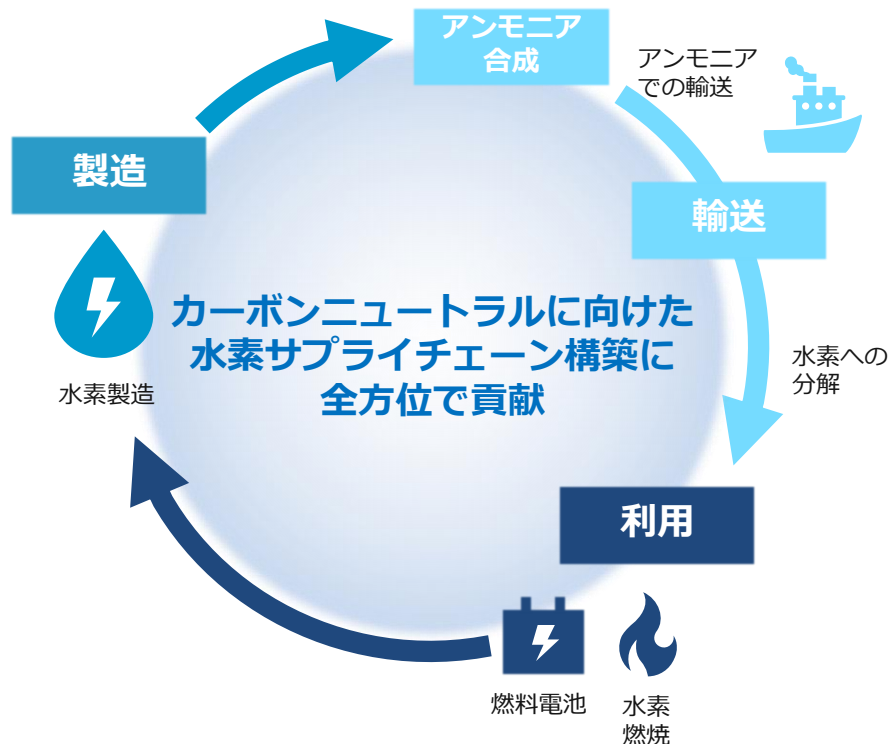
数10億円規模

- ・水電解はアルカリ型方式が主流。2030年には市場規模は約3倍に
- ・先行競合品に比べ高効率・低コスト化に成功
- ・小型膜での採用が進んでおり、大型膜・大規模顧客向けの事業拡大を目指す

## SOEC用 電解質シート

数10億円規模

- ・高効率な水素製造法として欧州で開発が先行
- ・SOFC用シートの製造技術を活用。市場拡大に合わせてタイムリーに供給



## アンモニア 分解触媒

数10億円規模

- ・アンモニアは燃料および水素キャリアとしてカーボンニュートラル達成に有効な物質
- ・次期中計期間に顧客による小規模実証を実施予定  
2030年までに商業規模での実証予定

## SOFC用 電解質シート

100億円規模

- ・業界トップメーカーに20年超の取引実績
- ・2024年度に生産能力を1.5倍に拡大
- ・次期中計期間に更なる能力増強を見込む

## ②財務戦略：BS経営の推進（資産・資本効率向上）

### ■資産・資本の最適化：ROICによる事業管理

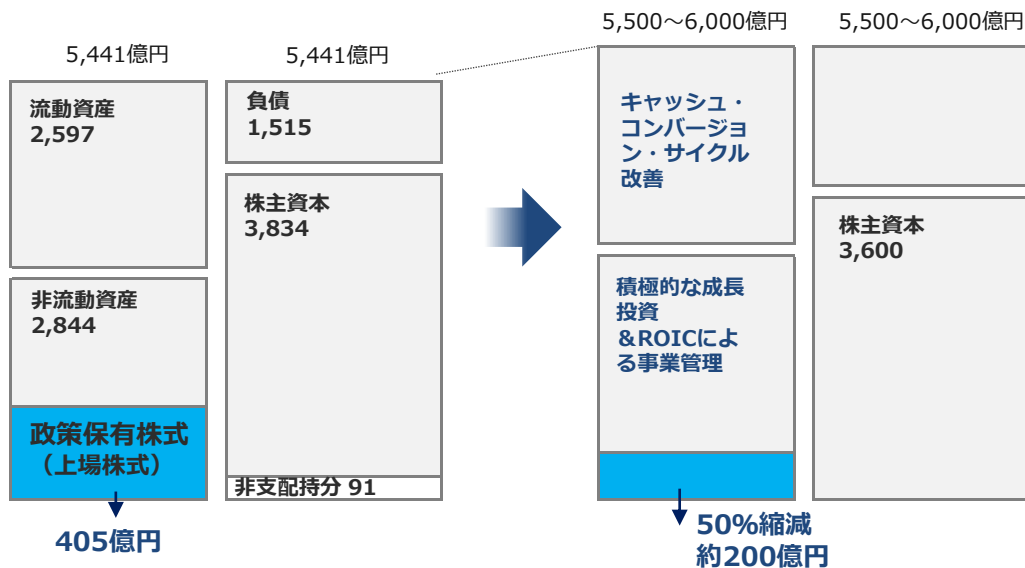
政策保有株式の縮減 2023年度末から4年間で50%まで縮減

### ■レバレッジ水準の最適化：2027年度末をめどに株主資本比率を60%近傍まで引き下げ

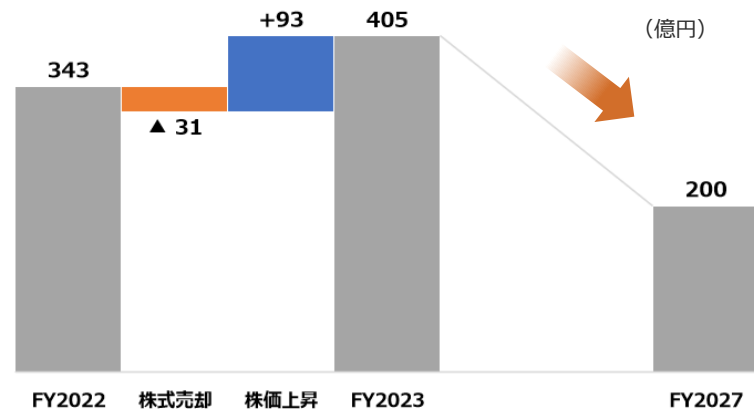
### ■外部格付けはA格を維持

FY2023末

FY2027末イメージ



FY2027末  
政策保有株式縮減イメージ



## ②財務戦略：キャッシュ・アロケーション方針

- 営業CFおよび調達した資金を用いて、積極的な成長投資と配当を行う（24-27年度は投資増を見込む）
- 政策保有株式縮減で得た資金は、自己株式の取得に充当する

### ● 現中計の方針と進捗

投資と株主還元のバランス重視

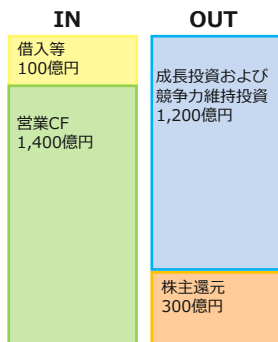
- ・ 成長投資は遅延
- ・ 非事業資産の売却及び株主還元の拡充は前倒しで実施

### ● 2024年度～2027年度の方針

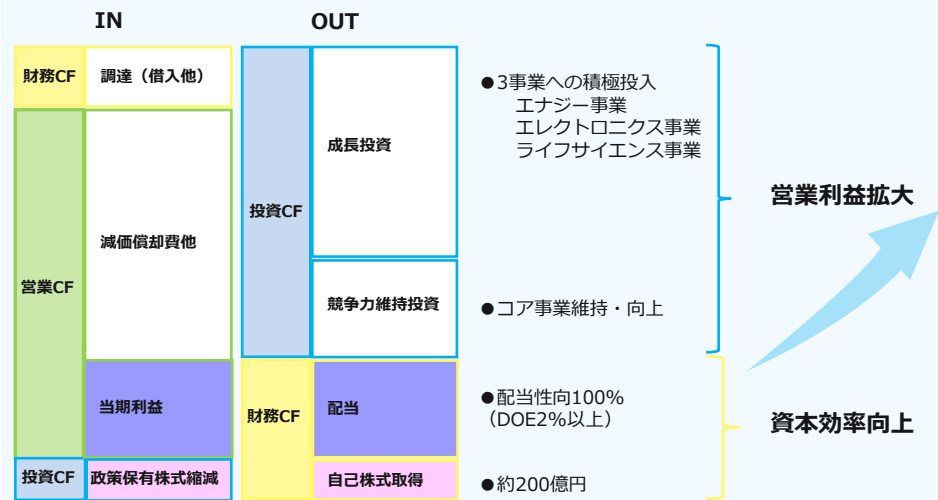
- ・ 投資(M&A含む) と 配当を優先
- ・ 余剰資金は自己株式の取得に充当

※投資額等の詳細は、次期中期経営計画策定後に開示予定

#### 中期経営計画3カ年



#### 22-24年度予想



- 2023年度は前期と同額の配当(180円/株 株式分割前、45円/株 株式分割後)を実施する予定
- 最適資本構成(株主資本比率60%近傍)の達成に向け、2024年度より新たな配当方針に変更
  - ・ 2024年度は、配当70円/株(前期比25円増配 株式分割後)と自己株式の取得50億円を計画

### ● 現中計の方針

十分な成長投資、競争力維持投資の財源を確保しつつ、  
資本効率性の追求を両立させる株主還元の実施

総還元性向 50%  
(配当性向 40%, 自己株式取得 10%)

### ● 還元推移

	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023 (予定)	FY2024 (予想)
一株当たり年間配当額 (円)	90	180	180	180	(280)
分割後	(23)	(45)	(45)	(45)	70
一株当たり当期純利益 (円)	▲ 273.33	594.86	488.29	281.91	(274.96)
分割後	(▲68.33)	(148.7)	(122.07)	(70.48)	68.74
配当性向 (%)	-	30.3	36.9	63.9	101.8
配当額 (億円)	36	72	71	70	106
自己株式取得額 (億円)	0	0	30	40	50
総還元額 (億円)	36	72	101	110	156
当期利益 (億円)	▲ 109	237	194	110	105
総還元性向 (%)	-	30.3	52.2	99.7	148.9

### ● 2024年度～2027年度の方針

配当性向 100% + 自己株式取得

- ・ 配当性向 100% 又は DOE※ 2.0%のいずれか  
大きい金額を還元する

- ・ 政策保有株式縮減で得た資金等の余剰資金で、  
自己株式の取得を実施する  
(2027年度までに 約200億円を予定)

#### ※DOE (株主資本配当率) 推移

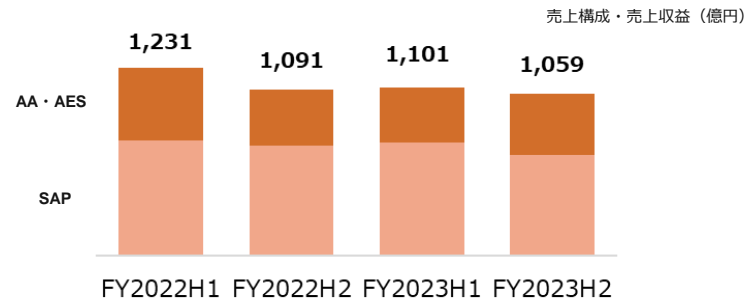
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 (予定)	2024年度 (予想)
1.1%	2.2%	2.0%	1.9%	2.8%

## 参考資料 事業の概況

---

# 事業の状況【AA・SAP】

市場領域		主な製品
AA・SAP	AA・AES	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクリル酸</li> <li>・アクリル酸エステル他</li> </ul>
	SAP	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高吸水性樹脂</li> </ul>

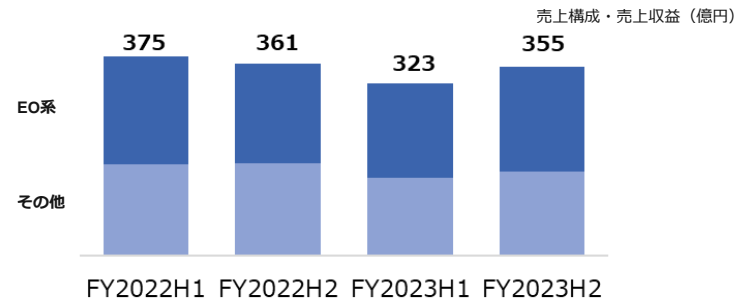


市場領域	市場環境	当社の状況(対前年)	今後の取組み
AA・AES	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国景気後退によりアジア市況低調継続</li> <li>・国内需要は自動車向け等回復傾向ではあるが、全体的な回復には時間を要する見通し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外市況下落によるスプレッド悪化</li> <li>・新興国向け拡販により数量増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆短期                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ全体の生産最適化</li> <li>・インドや東南アジアの需要の取込み</li> </ul> </li> <li>◆中長期                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・安定的な販売先確保およびコスト削減策の実行</li> </ul> </li> </ul>
SAP	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新興国の子供向けおむつ需要が伸長する一方、インフレの影響等により世界需要は微増にとどまる見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新興国での拡販や国内市場でのシェアアップにより数量増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆短期                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内再編に伴う顧客取り込み</li> <li>・新興国の市場成長に合わせた需要の取込み</li> <li>・コスト削減による収益性向上</li> </ul> </li> <li>◆中長期                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的な需要増加に向けた供給体制の検討</li> <li>・サステナブル対応（バイオ、リサイクル）</li> <li>・インドネシアでの研究体制構築</li> </ul> </li> </ul>



# 事業の状況【ベーシックマテリアルズ他】

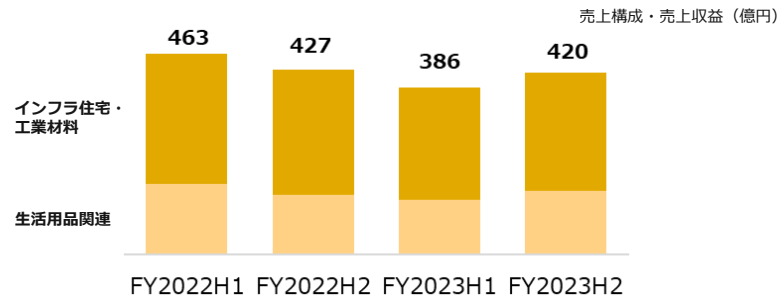
市場領域		主な製品
ベーシックマテリアルズ他	EO系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸化エチレン(EO)</li> <li>・エチレングリコール(EG)</li> <li>・エタノールアミン(EA)</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊エステル</li> <li>・プロセス触媒</li> </ul>



市場領域	市場環境	当社の状況(対前年)	今後の取組み
ベーシックマテリアルズ他	<p>【EO系】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的なEG需給バランスの軟化が続く</li> <li>・内需は界面活性剤用途を中心に低迷</li> </ul>	<p>【EO系】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原燃料や固定費/修繕費の上昇に伴う製品値上げを実施</li> <li>・市況低迷によりEGの輸出停止を継続</li> <li>・内需低迷により販売数量減</li> </ul>	<p>【EO系】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆短期 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内最大のEOメーカーとして、安定供給体制を維持</li> </ul> </li> <li>◆中長期 <ul style="list-style-type: none"> <li>・川上・川下・同業他社とのアライアンスを検討</li> </ul> </li> </ul>

# 事業の状況【インダストリアル・ハウスホールド①】

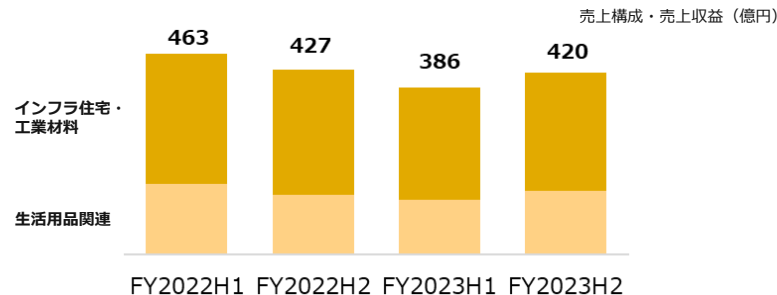
市場領域	主な製品
インダストリアル・ハウスホールド	インフラ住宅・工業材料 ・コンクリート混和剤用ポリマー ・アクリル樹脂 ・各種アミン類（エチレンイミン他）
	生活用品関連 ・ポリカルボン酸系ポリマー ・セカンダリーアルコールエトキシレート



市場領域	市場環境	当社の状況(対前年)	今後の取組み
インフラ住宅・工業材料	<b>【インフラ住宅】</b> ・コンクリート関連の世界需要は伸長。国内需要は漸減続く ・国内リフォーム需要は堅調  <b>【工業材料】</b> ・CO2回収システムでアミン類が脚光	<b>【インフラ住宅】</b> ・混和剤用ポリマーは海外市場で中国・韓国品との競合により数量減 ・塗料用アクリル樹脂はリフォーム向けで堅調 新築の減少により窯業建材向け数量減 <b>【工業材料】</b> ・エチレンイミンは前半在庫調整局面により数量減も回復基調	◆短期 <b>【インフラ住宅】</b> ・既存品のスプレッド維持拡大を図りながら、高機能製品によるシェア増を目指す <b>【工業材料】</b> ・アミン類を用いたCO2吸収用途の開発に注力（中長期を含む） ◆中長期 <b>【インフラ住宅】</b> ・汎用品から高付加価値品へのシフト ・CO2削減コンクリートをはじめとする環境対応製品に注力

# 事業の状況【インダストリアル・ハウスホールド②】

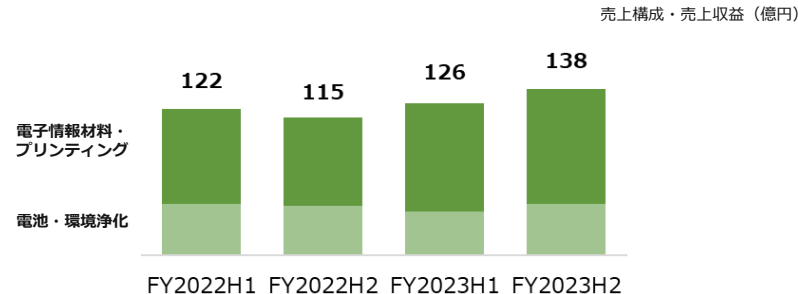
市場領域		主な製品
インダストリアル・ ハウスホールド	インフラ住宅・ 工業材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリート混和剤用ポリマー</li> <li>・アクリル樹脂</li> <li>・各種アミン類（エチレンイミン他）</li> </ul>
	生活用品関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポリカルボン酸系ポリマー</li> <li>・セカンダリーアルコールエトキシレート</li> </ul>



市場領域	市場環境	当社の状況(対前年)	今後の取組み
生活用品関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗剤分野は、中国景気低迷により販売数量減</li> <li>・インフレに伴う節約志向により、低価格帯にシフトする傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高付加価値製品で使用される当社製品の販売数量減</li> <li>・海外市場において競合との価格競争激化により販売数量減</li> <li>・特定顧客向け開発品は堅調に推移</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆短期 <ul style="list-style-type: none"> <li>・原料価格、用役費等の上昇に伴う価格是正</li> <li>・販売チャネル拡充とターゲット顧客へ販促活動の集中</li> </ul> </li> <li>◆中長期 <ul style="list-style-type: none"> <li>・需要に見合った生産体制の最適化</li> <li>・新規高機能製品・環境対応製品(バイオ原料・生分解)に注力</li> </ul> </li> </ul>

# 事業の状況【エネルギー・エレクトロニクス①】

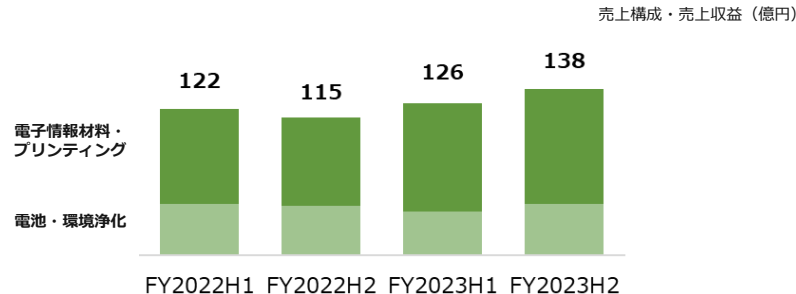
市場領域		主な製品
エネルギー・エレクトロニクス	電子情報材料・プリンティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクリビユア<sup>®</sup>(光学フィルム用アクリル樹脂)</li> <li>・レジスト材料</li> <li>・微粒子</li> <li>・VEEA<sup>®</sup>(異種重合性モノマー)</li> </ul>
	電池・環境浄化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イオネル<sup>®</sup></li> <li>・燃料電池材料</li> <li>・環境触媒</li> <li>・自動車触媒</li> </ul>



市場領域	市場環境	当社の状況(対前年)	今後の取組み
電子情報材料・プリンティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・液晶ディスプレイ市場の中国シフトが加速</li> <li>・液晶ディスプレイ用素材の需要は23年度後半より悪化したが、24年度前半より緩やかな回復を見込む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段階的な需要増により、液晶パネル関連製品の販売数量増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆短期 <ul style="list-style-type: none"> <li>・液晶ディスプレイ市場の中国シフトに対応した拡販</li> <li>・高付加価値製品の拡販</li> </ul> </li> <li>◆中長期 <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代ディスプレイ向けの新規製品開発</li> <li>・電材向けなど高付加価値プリンティング・コーティング用途への展開</li> <li>・3Dプリンター向け材料の開発推進</li> </ul> </li> </ul>

# 事業の状況【エネルギー・エレクトロニクス②】

市場領域	主な製品
エネルギー・エレクトロニクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子情報材料・プリンティング</li> <li>・アクリビユア<sup>®</sup>(光学フィルム用アクリル樹脂)</li> <li>・レジスト材料</li> <li>・微粒子</li> <li>・VEEA<sup>®</sup>(異種重合性モノマー)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>電池・環境浄化</li> <li>・イオネル<sup>®</sup></li> <li>・燃料電池材料</li> <li>・環境触媒</li> <li>・自動車触媒</li> </ul>



市場領域	市場環境	当社の状況(対前年)	今後の取組み
電池・環境浄化	<p><b>【電池】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国はEV販売堅調も、成長鈍化によりLIB市場は競争激化</li> <li>欧州では景気後退でEV販売減</li> <li>米国では中国製EV/電池(材料)排除の動き</li> <li>欧米韓でSOFC/SOEC急拡大</li> </ul> <p><b>【環境浄化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CO2排出の少ない排ガス処理・排水処理触媒のニーズが高まる</li> </ul>	<p><b>【電池】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イオネル：日欧米国市場向けで販売堅調。一方、中国では市況が大幅に下落する中、価格競争力の高い中国JV品への切り替え着手</li> <li>Zrシート：旺盛な顧客ニーズに対応し、増販を達成</li> </ul> <p><b>【環境浄化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>脱硝触媒および触燃触媒の販売数量が減少</li> </ul>	<p>◆短期</p> <p><b>【電池】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イオネル：日欧米へ販路拡大、欧州JV検討を中断し、米国・日本の立地を検討。中国市場での中国JV品販売開始・拡大</li> </ul> <p><b>【環境浄化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>排水処理触媒、触燃触媒の海外展開強化</li> </ul> <p>◆中長期</p> <p><b>【電池】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イオネル：地産地消の戦略に沿った生産体制構築と差別化技術の確立</li> <li>Zrシート：生産能力の大幅増強とコストダウン</li> </ul> <p><b>【環境浄化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GX関連製品の開発・投入</li> </ul>

市場領域	主な製品	市場環境	当社の状況(対前年)	今後の取組み
健康・医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>中分子原薬受託製造                             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オリゴ核酸</li> <li>▶ ペプチド</li> </ul> </li> <li>医薬品開発支援                             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ HDO（ヘテロ二本鎖核酸）</li> <li>▶ DDSポリマー</li> <li>▶ カチオン性ペプチド（Dab8葉酸）</li> </ul> </li> </ul>	中分子医薬品（核酸／ペプチド）は依然として高い成長率を維持している  〈成長率（2020～2030年）〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・核酸：高（17%）</li> <li>・ペプチド：中（8%）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微量少量合成の獲得件数は前年度比で約7倍と急成長</li> <li>・24年度のSGP棟案件も具体的な案件が出てきている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆短期                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・北米展開強化</li> <li>・M&amp;Aや他社アライアンスを含めた成長戦略の検討</li> </ul> </li> <li>◆中長期                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・中～大量規模の受託案件の取込み</li> </ul> </li> </ul>
化粧品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多機能性ポリマー</li> <li>・エマルションポリマー</li> <li>・リポソーム</li> <li>・天然由来製品</li> <li>・既存製品（PVP、有機酸、PEI）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高機能素材への開発要求</li> <li>・天然由来素材へのニーズの高まり</li> <li>・各国規制の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多機能性ポリマー、エマルションポリマーを製品化</li> <li>・既存製品の化粧品用途での採用拡大（PVP、有機酸、PEI等）</li> <li>・カスタマイズ案件の獲得（ポリマー、リポソーム等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆短期                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場開拓・採用促進</li> <li>・新規製品の上市促進</li> </ul> </li> <li>◆中長期                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・天然由来/環境にやさしい素材開発の強化</li> <li>・提携/協業</li> </ul> </li> </ul>
事業創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルカリ水電解セパレータ</li> <li>・アンモニア分解触媒</li> <li>・海水淡水化向け浸透圧発生剤</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水素・アンモニア利用検討が加速</li> <li>・海水淡水化・排水処理技術へのニーズの高まり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルカリ水電解用セパレータの大型設備が完工（NEDO助成）</li> <li>・アンモニア分解触媒のパートナー企業との協業体制を強化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>☆JERA・千代田化工建設とNEDO採択</li> <li>☆三菱重工業と共同開発契約を締結</li> </ul> </li> <li>・ハワイ海水淡水化パイロットプラントでの実証データ取得完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆中長期                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルカリ水電解用セパレータの上市・グローバル展開</li> <li>・アンモニア分解触媒のパートナー連携による社会実装の推進</li> <li>・浸透圧発生剤は、石油掘削などの排水処理用途への展開</li> </ul> </li> </ul>

## 参考資料 財務数値・市況・生産能力

---

# 2023年度 業績（11月7日予想値との比較）

(億円)	FY2023	FY2023	増減	
	11/7予想値	実績	増減	率
売上収益	3,900	3,920	20	0.5%
営業利益	155	166	11	6.9%
(利益率)	4.0%	4.2%	-	-
持分法による投資損益	▲ 7	▲ 10	▲ 3	-
税引前利益	150	157	7	5.0%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	105	110	5	4.8%
ROE	2.8%	3.0%	0.2p	-
ROA	2.8%	2.9%	0.1p	-
ナフサ価格 (円/kL)	69,300	69,100	▲ 200	▲0.3%
円/ドル	143	145	2	1.1%
円/ユーロ	154	157	3	1.7%



	2023年 3月末	2024年 3月末	増減
現金及び現金同等物	390	<b>551</b>	161
営業債権	986	<b>982</b>	▲ 4
棚卸資産	861	<b>844</b>	▲ 16
その他	204	<b>219</b>	15
<b>流動資産合計</b>	<b>2,441</b>	<b>2,597</b>	156
有形固定資産	1,895	<b>1,884</b>	▲ 11
無形資産	84	<b>50</b>	▲ 34
持分法で会計処理されている投資	271	<b>265</b>	▲ 6
その他	543	<b>645</b>	102
<b>非流動資産合計</b>	<b>2,793</b>	<b>2,844</b>	51
<b>資産合計</b>	<b>5,233</b>	<b>5,441</b>	207

(億円)

	2023年 3月末	2024年 3月末	増減
営業債務	531	<b>614</b>	82
借入金	509	<b>390</b>	▲ 119
その他	493	<b>511</b>	19
<b>負債合計</b>	<b>1,533</b>	<b>1,515</b>	▲ 18
資本金	250	<b>250</b>	-
自己株式	▲ 93	<b>▲ 24</b>	69
利益剰余金	3,019	<b>2,984</b>	▲ 35
その他	446	<b>623</b>	178
非支配持分	78	<b>91</b>	13
<b>資本合計</b>	<b>3,700</b>	<b>3,926</b>	226
<b>負債及び資本合計</b>	<b>5,233</b>	<b>5,441</b>	207

D/Eレシオ (倍)	0.16	<b>0.12</b>
有利子負債	576	<b>456</b>

# 連結キャッシュ・フロー

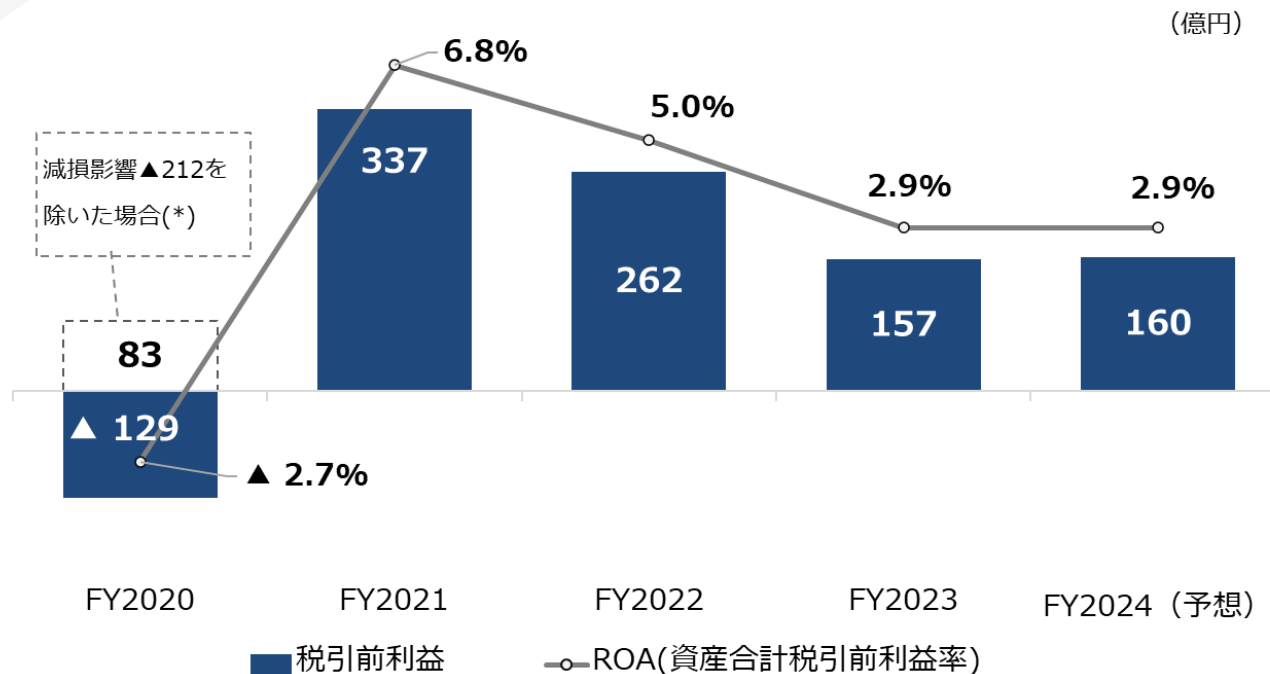
(億円)

	FY2022 実績	FY2023 実績	増減
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	414	<b>579</b>	164
税引前利益	262	<b>157</b>	▲ 104
減価償却費及び償却費	293	<b>319</b>	25
営業債権債務・棚卸資産の増減	▲ 75	<b>148</b>	223
その他	▲ 66	<b>▲ 45</b>	20
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	▲ 260	<b>▲ 157</b>	103
<b>フリーキャッシュ・フロー</b>	155	<b>422</b>	267
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	▲ 173	<b>▲ 284</b>	▲ 110
借入金の増減額	▲ 41	<b>▲ 151</b>	▲ 110
自己株式の取得による支出	▲ 30	<b>▲ 40</b>	▲ 10
配当金の支払額	▲ 76	<b>▲ 71</b>	5
その他	▲ 27	<b>▲ 23</b>	4
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	390	<b>551</b>	161

# セグメント別売上収益・営業利益（上期・下期推移）

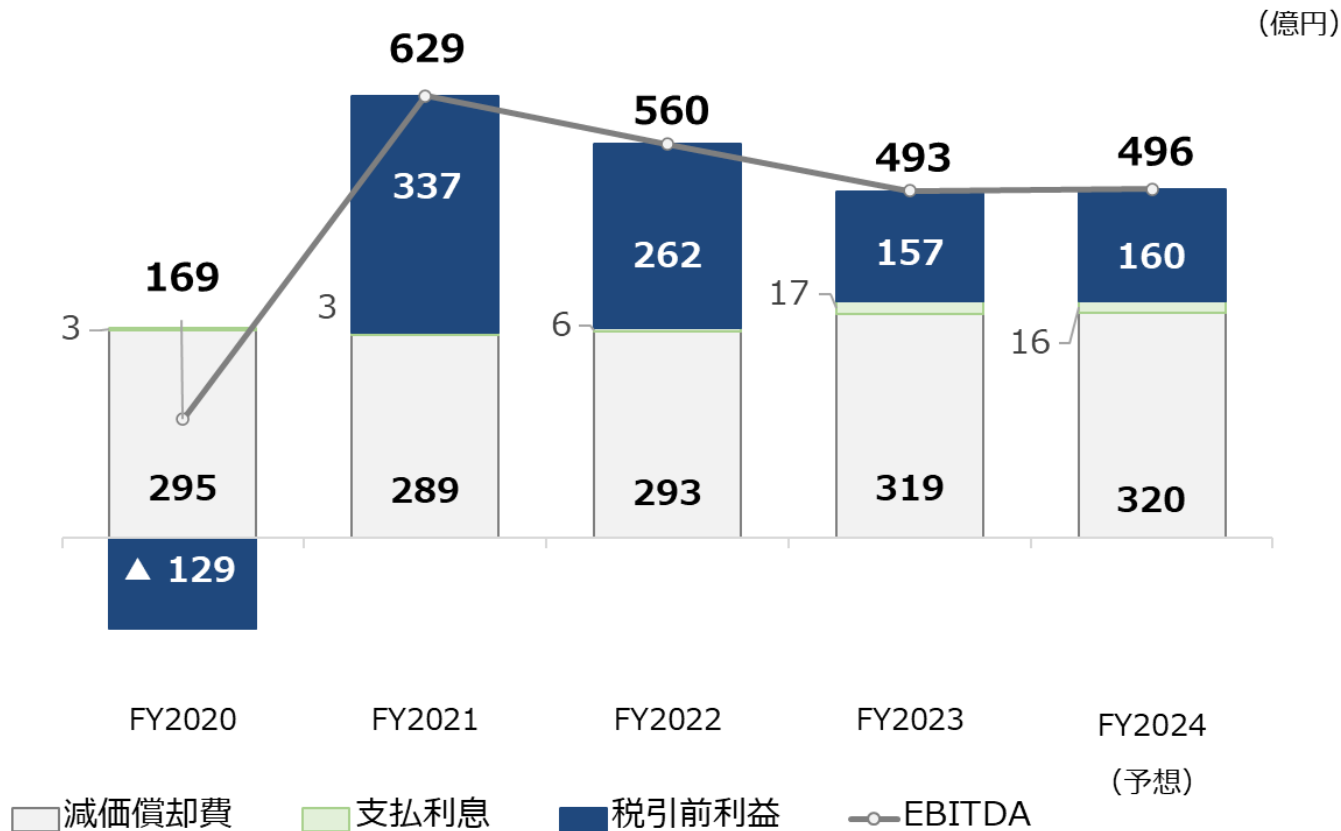
(億円)

市場領域	FY2022			FY2023			FY2024予想		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期(予想)	下期(予想)	通期(予想)
AA・SAP	1,231	1,091	2,321	1,101	1,059	2,160	1,039	1,075	2,114
ベーシックマテリアルズ他	375	361	736	323	355	678	341	355	696
<b>マテリアルズ事業 合計</b>	<b>1,605</b>	<b>1,451</b>	<b>3,057</b>	<b>1,424</b>	<b>1,414</b>	<b>2,838</b>	<b>1,380</b>	<b>1,430</b>	<b>2,810</b>
インダストリアル・ハウスホールド	463	427	890	386	420	806	420	445	865
エナジー・エレクトロニクス	122	115	236	126	138	264	145	169	314
その他	7	6	13	6	5	11	5	6	11
<b>ソリューションズ事業 合計</b>	<b>591</b>	<b>548</b>	<b>1,139</b>	<b>519</b>	<b>563</b>	<b>1,082</b>	<b>570</b>	<b>620</b>	<b>1,190</b>
<b>売上収益 合計</b>	<b>2,197</b>	<b>1,999</b>	<b>4,196</b>	<b>1,943</b>	<b>1,977</b>	<b>3,920</b>	<b>1,950</b>	<b>2,050</b>	<b>4,000</b>
マテリアルズ 事業	141	68	209	83	44	127	48	57	105
ソリューションズ 事業	26	▲ 11	15	10	17	27	9	28	37
全社共通	6	4	11	7	4	11	3	5	8
<b>営業利益 合計</b>	<b>173</b>	<b>62</b>	<b>235</b>	<b>100</b>	<b>66</b>	<b>166</b>	<b>60</b>	<b>90</b>	<b>150</b>

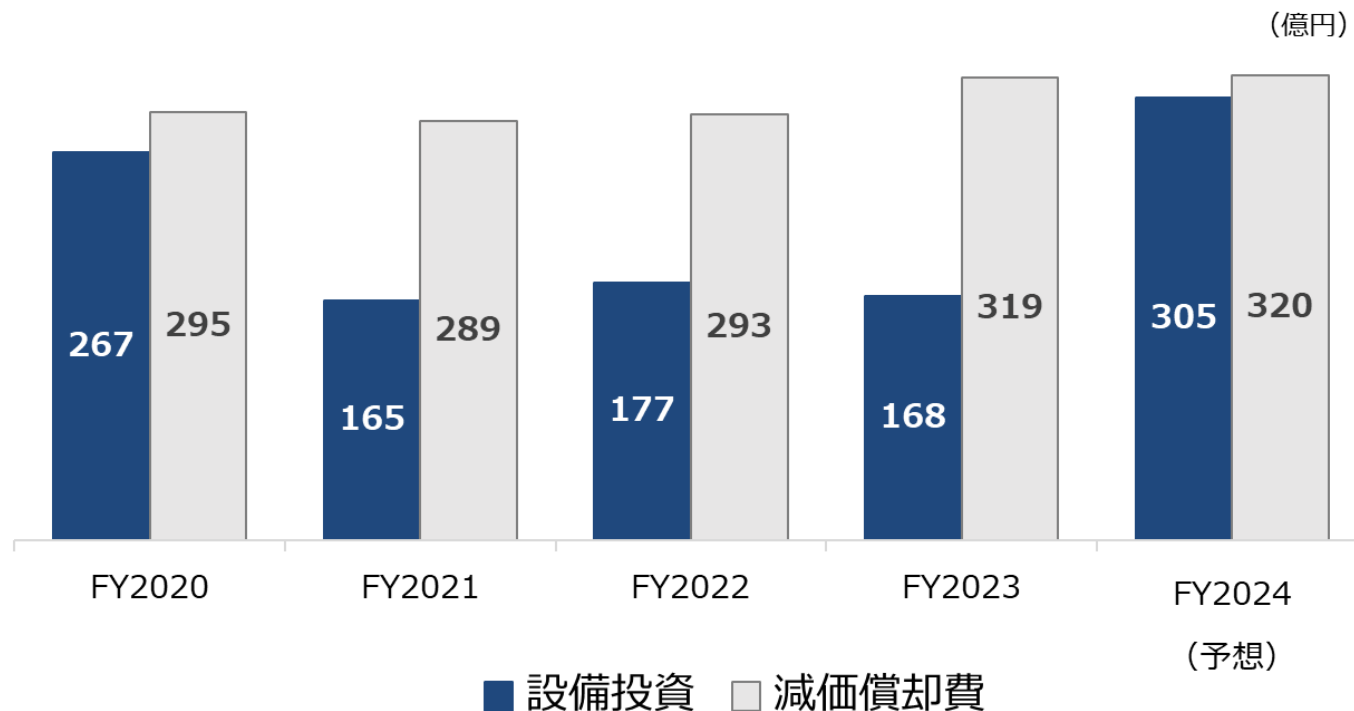


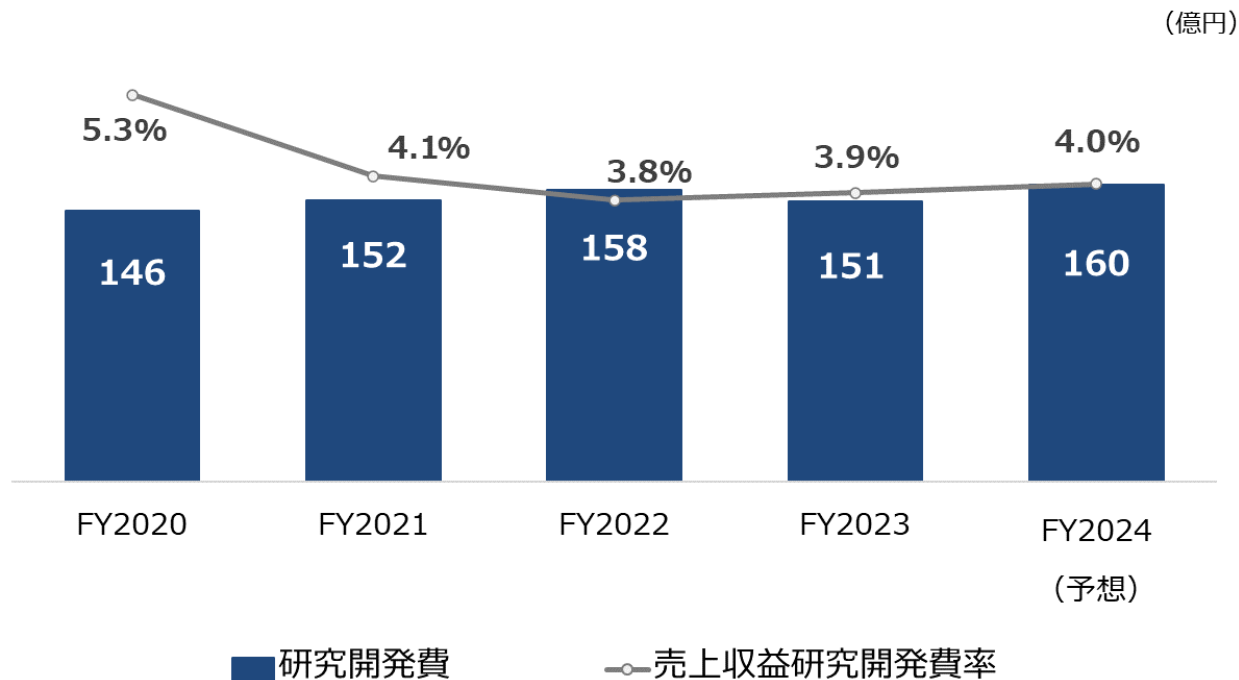
(\*)2020年度に当社連結子会社ニッポンショクバイ・ヨーロッパ N.V. の固定資産及びシラス,Inc.の のれん及び無形資産の減損損失を計上しており、その影響を除いた場合の税引前利益を括弧内に示しております。

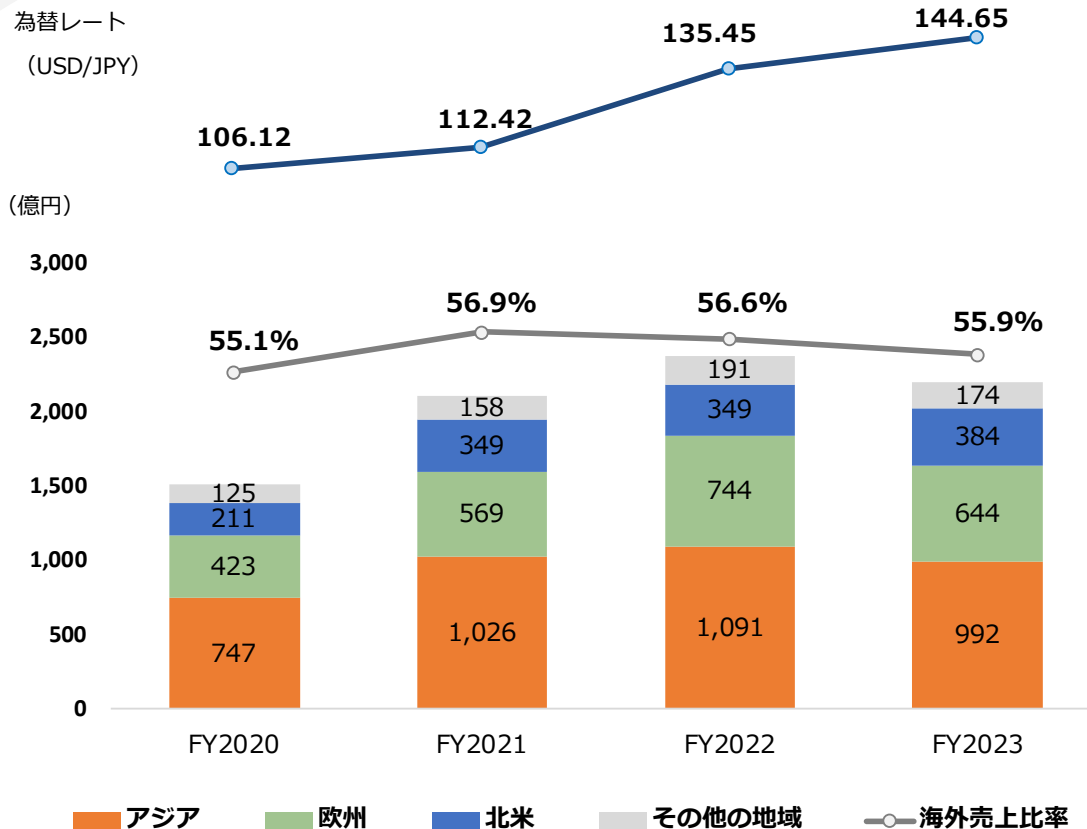
# EBITDAの推移



# 設備投資額と減価償却費の推移



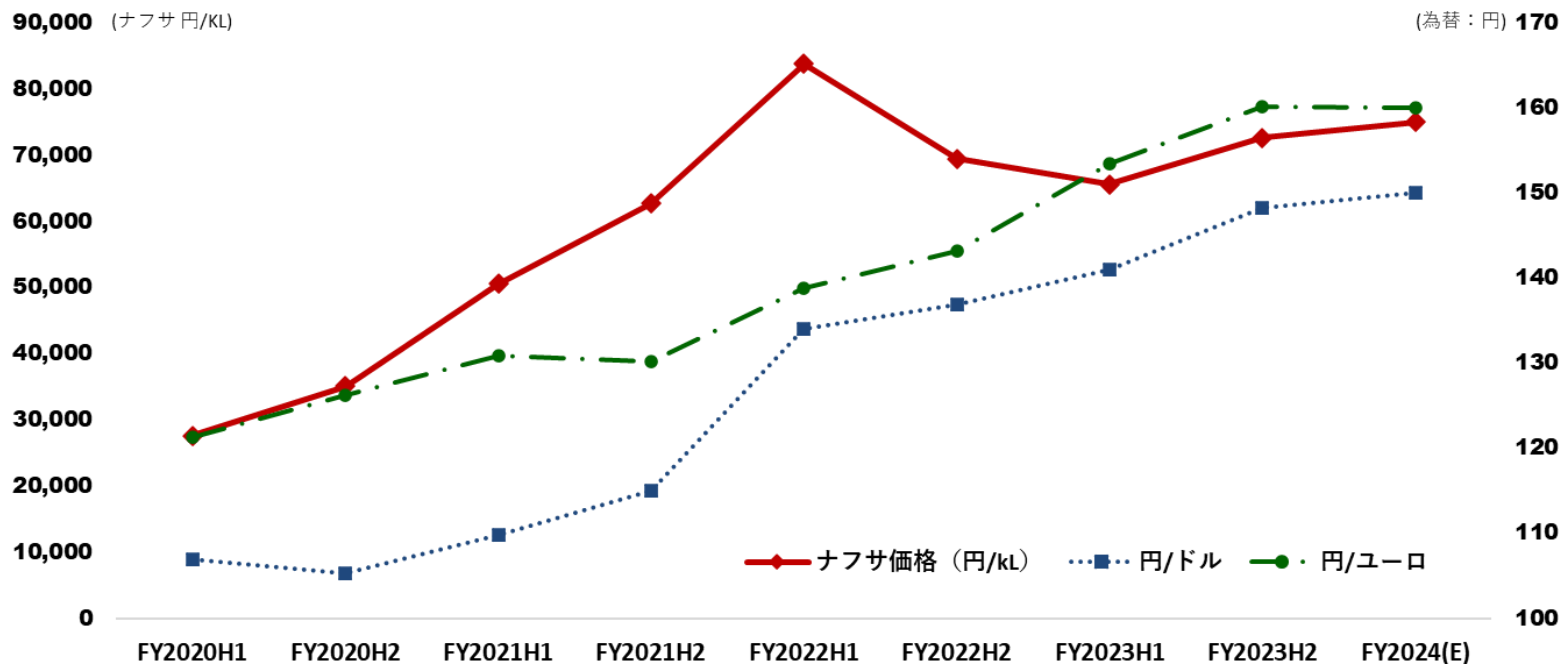


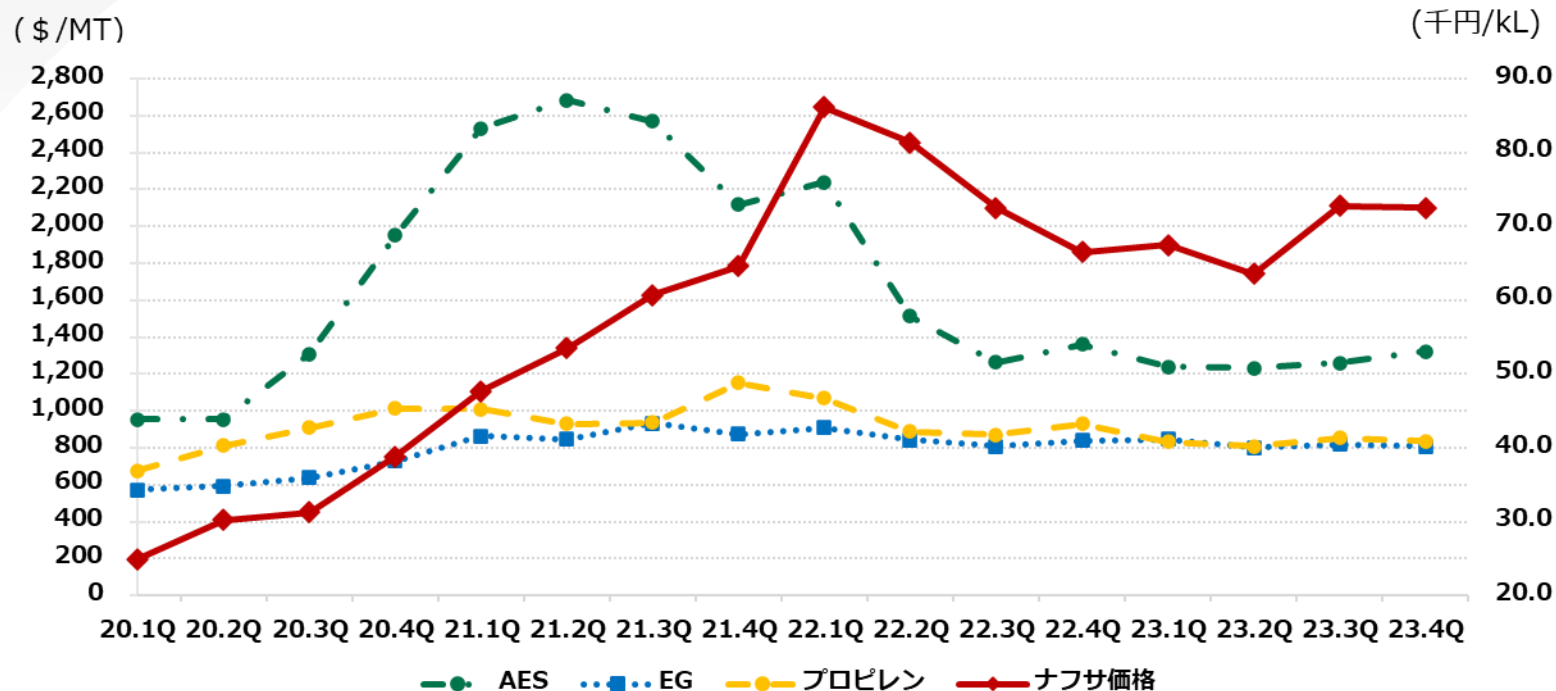




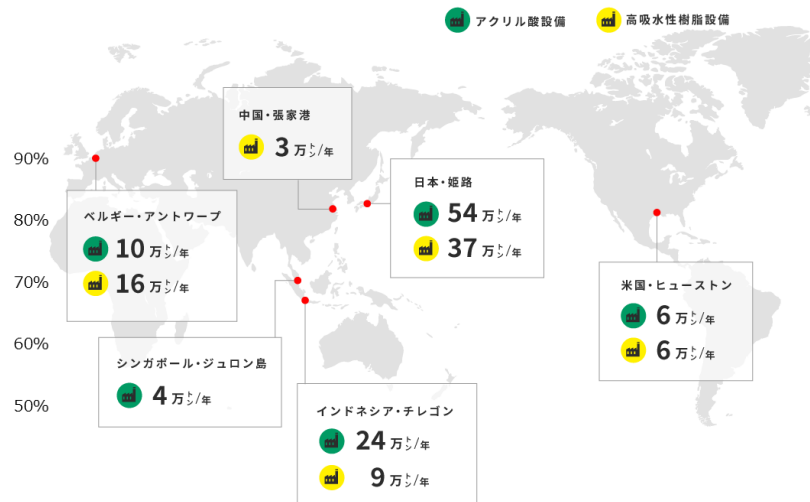
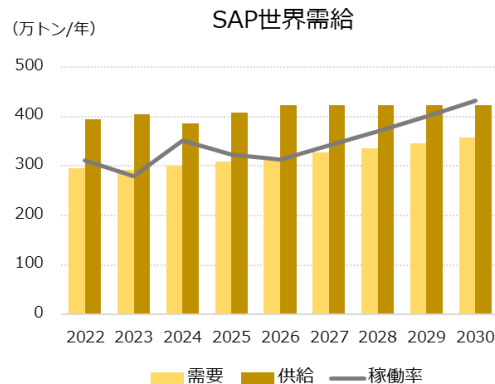
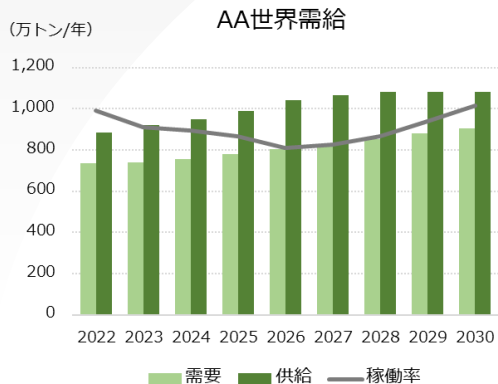
# 国産ナフサ・為替推移

	FY2020H1	FY2020H2	FY2021H1	FY2021H2	FY2022H1	FY2022H2	FY2023H1	FY2023H2	FY2024(E)
ナフサ価格 (円/kL)	27,600	35,100	50,600	62,700	83,800	69,500	65,600	72,700	75,000
円/ドル	107	105	110	115	134	137	141	148	150
円/ユーロ	121	126	131	130	139	143	153	160	160





## ■世界需要：中長期的に年率3-5%程度の成長を想定



生産能力	日本触媒グループ						(万トン/年)
	日本	インドネシア	ベルギー	米国	シンガポール	中国	合計
アクリル酸設備	54	14 + 10 2023年新設	10	6	4	0	98
高吸水性樹脂設備	37	9	16	6	0	3	71

本資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的としているものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。また、記載されている内容は、資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した内容を含んでおり、記載された内容を確認したり、保証するものではありません。実際の業績は、様々な要因により、異なる結果となる場合があります。

お問合せ先：

株式会社日本触媒 コーポレート・コミュニケーション部  
東京都千代田区内幸町1-2-2 日比谷ダイビル

TEL :03-3506-7605

E-mail :ns\_ir@shokubai.co.jp

URL :<https://www.shokubai.co.jp>